

# 第六次塩尻市総合計画 個別分野ワークショップ 結果

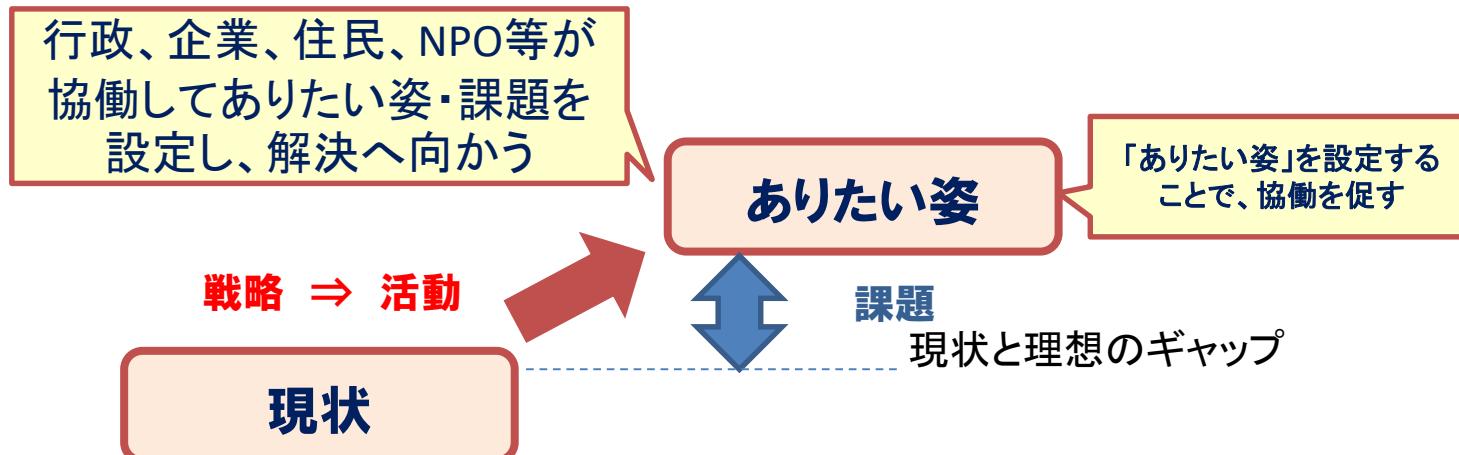
## ■目的

- (1) 各政策分野（10程度）におけるありたい姿の具体化・共有
- (2) 各政策分野における現状とのギャップの確認、課題の抽出

## ■個別分野ワークショップ実施の狙い ※第六次総合計画の策定方針から

狙い：政策検討への市民の参画（＝行政の限界を超えるため）

- (1) 住民・事業者等の視点や知識を生かした分野別のゴール・戦略の設定
- (2) 策定後にも、行政単独ではなく、協働で政策を推進するための関係構築、機運醸成



## ■日程・場所

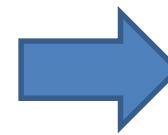
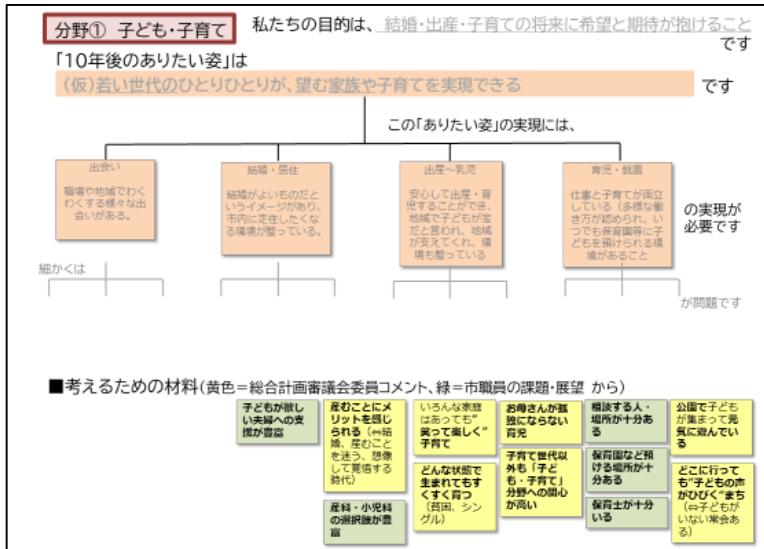
令和4年10月21日、11月24日、28日、29日  
(2.5時間×10グループ)  
塩尻市役所本庁舎5階 大会議室

## ■参加者

関係団体、分野有識者、審議会委員等 延べ28名  
市役所職員（庁内策定チーム員等） 延べ46名

# ワークショップ 準備～実施～まとめの流れ

## 1 市民アンケート・市職員意見や第2回審議会委員意見をもとに、作業シートを作成(準備)



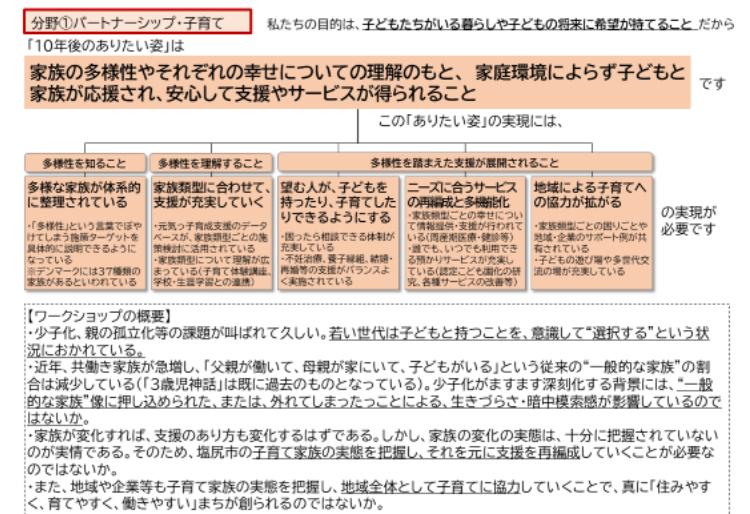
## 2 関係団体、分野有識者、審議会委員と市役所職員で意見を出し合う(当日)



## 3 出し合った意見を確認・整理(当日)



## 4 検討結果をまとめ(後日)



## 分野①パートナーシップ・子育て

私たちの目的は、子どもたちがいる暮らしや子どもの将来に希望が持てることだから

「10年後のありたい姿」は

家族の多様性やそれぞれの幸せについての理解のもと、家庭環境によらず子どもと家族が応援され、安心して支援やサービスが得られること

です

この「ありたい姿」の実現には、

多様性を知ること	多様性を理解すること	多様性を踏まえた支援が展開されること	地域による子育てへの協力が拡がる
<p>多様な家族が体系的に整理されている</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「多様性」という言葉でばやけてしまう施策ターゲットを具体的に説明できるようになっている</li><li>※デンマークには37種類の家族があるといわれている</li></ul>	<p>家族類型に合わせて、支援が充実していく</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・元気っ子育成支援のデータベースが、家族類型ごとの施策検討に活用されている</li><li>・家族類型について理解が広まっている（子育て体験講座、学校・生涯学習との連携）</li></ul>	<p>望む人が、子どもを持ったり、子育てしたりできるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・困ったら相談できる体制が充実している</li><li>・不妊治療、養子縁組、結婚・再婚等の支援がバランスよく実施されている</li></ul>	<p>ニーズに合うサービスの再編成と多機能化</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・家族類型ごとの幸せについて情報提供・支援が行われている（周産期医療・健診等）</li><li>・誰でも、いつでも利用できる預かりサービスが充実している（認定こども園化の研究、各種サービスの改善等）</li></ul>

の実現が必要です

### 【ワークショップの概要】

- ・少子化、親の孤立化等の課題が呼ばれて久しい。若い世代は子どもと持つことを、意識して“選択する”という状況にされている。
- ・近年、共働き家族が急増し、「父親が働いて、母親が家にいて、子どもがいる」という従来の“一般的な家族”的割合は減少している（「3歳児神話」は既に過去のものとなっている）。少子化がますます深刻化する背景には、“一般的な家族”像に押し込められた、または、外れてしまったことによる、生きづらさ・暗中模索感が影響しているのではないか。
- ・家族が変化すれば、支援のあり方も変化するはずである。しかし、家族の変化の実態は、十分に把握されていないのが実情である。そのため、塩尻市の子育て家族の実態を把握し、それを元に支援を再編成していくことが必要なのではないか。
- ・また、地域や企業等も子育て家族の実態を把握し、地域全体として子育てに協力していくことで、真に「住みやすく、育てやすく、働きやすい」まちが創られるのではないか。

## 分野① 子ども・子育て

私たちの目的は、結婚・出産・子育ての将来に希望と期待が抱けることです

「10年後

多様性を  
知る認知

「若し」は

「自分たち

の「自分たち

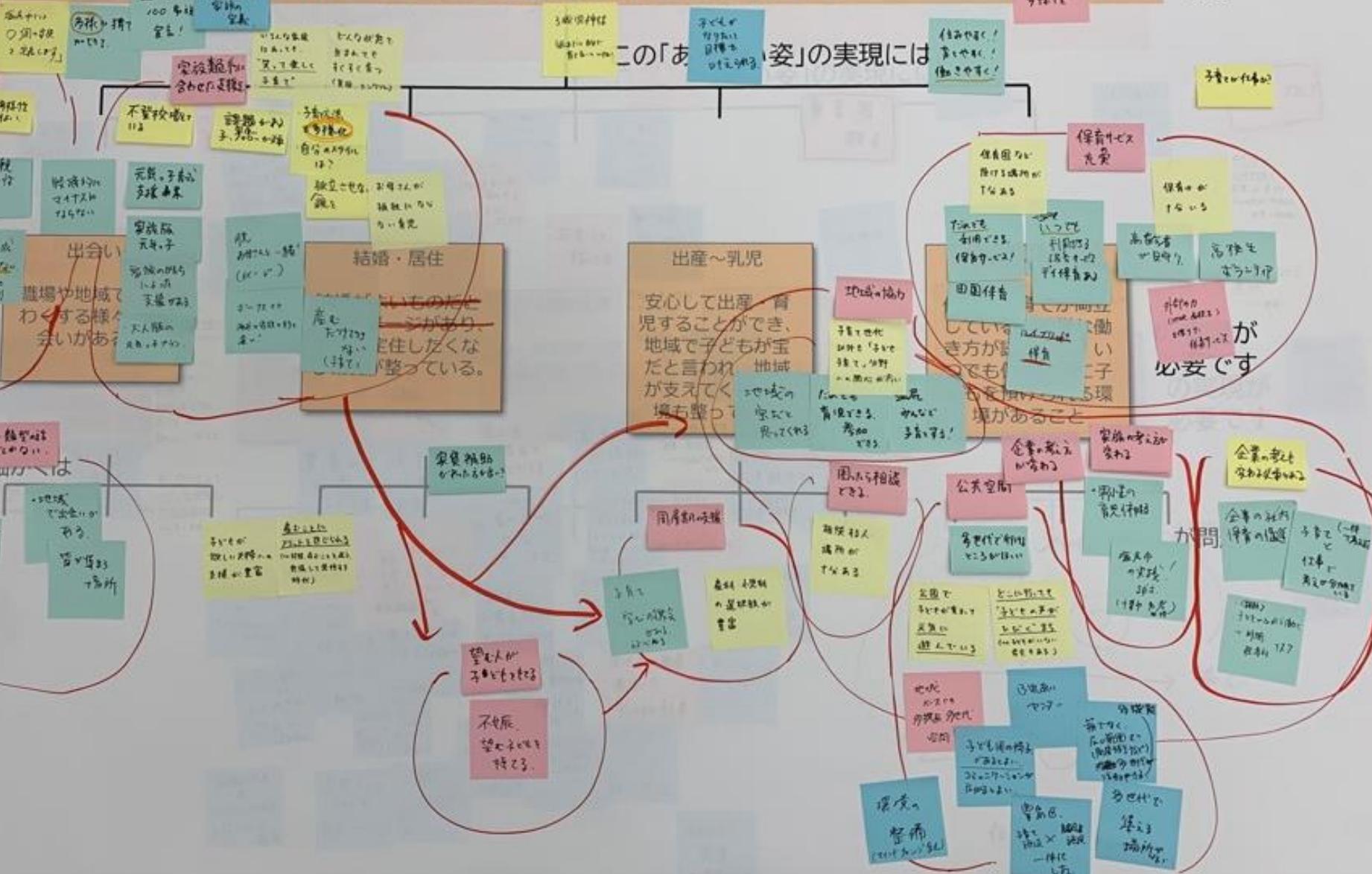
の「自分たち」

「子ども・子育て」

私たちは、ひとりひとりが、望む家族、育てを実現できる

この「あ」姿の実現には

です



## 分野② 学校教育・家庭支援

「10年後のありたい姿」は

すべての子どもたちがワクワクする学びを自ら発見できるとともに、周りにも共感でき、「塩尻で育ってよかった」と思う体験ができること

です

この「ありたい姿」の実現には、

ワクワクする学びの場や機会・時間をみんなでつくる

ワクワク(主体性)と協働で(深く)学ぶ  
・基礎学力が育まれている  
・自ら考える力、対話力等  
「ワクワク」の土台が強化  
・デジタルが活用されている  
・友達・親子で学び合う  
・地域や企業との連携、学ぶと働くの境目がない生き方(キャリア)教育

学校を取り巻く資源を再整理・活用する  
・学校・地域の教育資源(ヒト・モノ・コト)を効果的に活用する実践が進んでいる  
・本気の大人から学ぶ機会が増えている(各種行事)  
・特性に応じた個別最適な環境がある

児童・生徒に向き合う場・時間が増える  
・保護者が自身の子育て・教育を考える場がある  
・学校の働き方改革、ライフワークバランスが進んでいる

学びの場・居場所が充実している  
・好きを伸ばす・多様な学びの場・居場所がある(児童クラブ・放課後キッズクラブ、部活、習い事、遊び場、図書館等)

困難や悩みを支える環境がある  
・様々な個性や家庭環境に関する理解が広がっている  
・フォーマル・インフォーマルな支援が充実している  
・困難を抱えていても、自己肯定感の高い児童・生徒が増えている

の実現が必要です

### 【ワークショップの概要】

- ・近年、「チャレンジしやすいまち」として塩尻を評価する大人が増えている。大人が感じている塩尻の魅力を児童・生徒にも体感してもらいながら(塩尻の強みを活かしながら)、ワクワクしながら学べる環境を充実していくことが、重要なのではないか。また、深い学びの体験を重ねることで、愛郷心が育くまれることも期待できる。
- ・学校には、地域の教育資源を活用しながら、塩尻版の主体的かつ対話的な深い学びを開発していってほしい。その際、学校はもっと地域や企業と連携してもよいと感じる。また、学校の外の学びの場や居場所も重要である。
- ・大人が児童・生徒に本気で向き合うことで、良い教育効果が期待できる。児童・生徒に関わる場・時間のある地域社会をみんなでつくっていく必要がある。
- ・様々な事情を持つ家庭が増えている。それぞれの幸せの形を理解し、支えることで、困難があっても、ワクワクする未来を見出し、学んでいけるまちの実現に挑戦していくことが求められる。

## 分野② 学校教育・家庭支援

「10年後のありたい姿」は

(仮)

私たちの目的は、  
すべての子どもたちが、望む未来を  
きることだからです

分自身で作り上げていくことがで

です

姿」の実現には、

の実現が  
必要です

が問題です



### 分野③ 伝統・芸術文化・スポーツ・生涯学習

私たちの目的は、伝統・芸術文化・スポーツ・生涯学習を通じて心を豊かにすることだから

「10年後のありたい姿」は

一人ひとりが“特別好きな=推し”余暇活動で自身と次世代の笑顔溢れる豊かな生活をつくり、このことが誇りや愛着、新たなつながりを生んでいること

です

この「ありたい姿」の実現には、

運動する機会・場が豊富にあり、スポーツ人口が増えている

- ・気軽にスポーツに参加できる機会や場がある
- ・幅広い部活動の指導が地域に育っている
- ・子どもも大人も運動の機会が増え、体力が向上している
- ・スポーツをとして一人では得られない充実感を得ている

主体的な学びができる場やツールが充実している

- ・多分野の市民サークルが活動し、学んだ内容が発信・共有されている
- ・文化芸術の鑑賞にデジタル技術が活かされている
- ・学びの成果が個人の生活の豊かさだけでなく地域にも還元されている
- ・この地域で学んだことが幸せの原体験となっている

文化を守ることが地域づくりや次世代育成につながっている

- ・文化財についての知識を得られる機会や知りたいことに答えてくれるしくみがある
- ・市民が誇りをもって地域の歴史・文化の価値を発信している
- ・文化財が市民共通の財産として次世代に継承されている

活動を通じて、新しいつながりが生まれる

- ・活動や学びを通して、人とのつながりが広がっていく
- ・祭りなどの地域活動で子どもと大人がつながっている
- ・一緒に活動する仲間ができる
- ・異なる分野の活動を知り、新しいことを始めるキッカケになる

の実現が必要です

#### 【ワークショップの概要】

- ・えんぱーくやユメックスアリーナなど、学びやスポーツの場は整備されており、活動人口は増えつつある(ユメックスができたことでスポーツ人口が延べ7万人増)。
- ・部活動の地域移行が議論されているように、地域の文化・スポーツ分野で活躍できる人材が求められている。
- ・地域固有の伝統文化やスポーツ体験が市民の原体験やウェルビーイングの形成に深く関わっている。
- ・一人ひとりが好きなことを持ち、余暇活動を充実させることは日々のルーティンの活力にもつながる。
- ・学びや文化・スポーツ活動を通じて、心身の健康だけでなく、地域づくり・次世代の人づくりにつながる。
- ・活動することで人と人、異分野や異世代がつながり、新しい文化が生み出されていく。

### 分野③ 伝統・文化・スポーツ・生涯学習

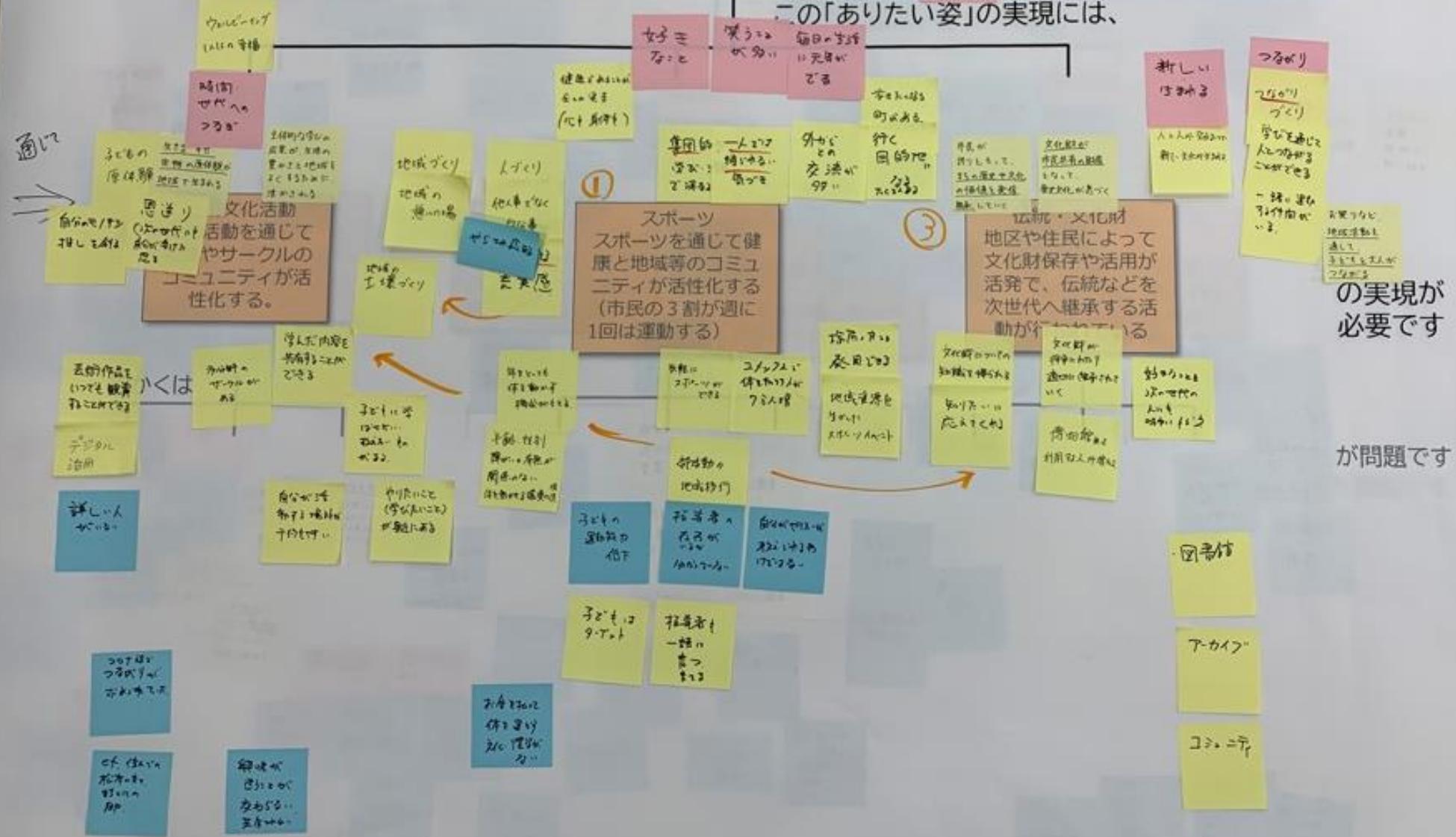
「10年後のあるべき姿」は

(仮)住民が伝統に誇りを持ち、芸術文化・生涯学習・スポーツを通じて心を豊かにすることにより豊かな人間が形成され継承されていくこと

私たちの目的は、伝統・芸術文化・生涯学習・スポーツを通じて心を豊かにするだからです

です

この「ありたい姿」の実現には、



# 塩尻に魅力と価値を見出す人たちがつながり、喜びと誇りを持ちながら働き、 多様で付加価値の高い事業・商品・サービスを支えている

です

この「ありたい姿」の実現には、

生活し、働き、挑戦したい意味(働く人視点)

多様で付加価値の高い事業が形成され、集積(事業者視点)

物語がある(消費者視点)

## 働く人や企業が塩尻を選んでいる

- ・住みたい/働きたい地域として、塩尻が選ばれている
- ・若者が夢を持てる魅力ある仕事があり、生活できる収入がある
- ・移住・定住した人がここを選んだ理由を語れる
- ・新規就農者や体験者の住まいの確保の仕組みがある

## “はたらく”を通じた自己実現ができる

- ・働き方、仕事、キャリアを自分でデザインし、決めている
- ・世代・文化のギャップを認め、理解しあう土壌がある
- ・幸せや実現したいことに対して向き合い、挑戦することができる環境、人のつながりがある
- ・ベテランのノウハウを受け継ぐ仕組みがある
- ・仕事と余暇と趣味とが融合している

## 業種・規模・職種の多様性が選択肢とリスク分散を実現

- ・1・2・3次産業が市内で発展。付加価値の高い製品やサービスを提供する企業・人が集積している。
- ・稼ぐ農業を目指した農業法人と里山を残しながら小規模な農業を営む兼業農家の両方がある
- ・働く選択肢が豊富で、世代交代、事業継承、新たなビジネス手法、未来への投資(学び・設備投資等)も行われている
- ・地場産業、商店街、伝統産業等を多くの人が関わっている(副業・外部協力者・企業連携等)。ソーシャルビジネスも集積。
- ・バランスのとれた土地利用により工業・商業・農業・住環境が良い形で立地し、土地が有効に活用されている

## 消費者に塩尻の物語が伝わる

- ・ものづくりの背景、ストーリーを消費者が理解した上で、積極的に選択している
- ・農業者と消費者の交流が活発に行われている
- ・ワインやぶどうなど产品が堪能できる拠点がある

の実現が必要です

## 【ワークショップの概要】

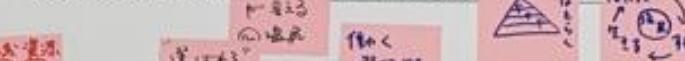
- ・塩尻には、自然が豊富で暮らしやすい環境があり、様々な外部の人や企業を受け入れる土壌がある。この地で生活し、働き、挑戦し、自分らしい人生を送る人が増えていく状況の実現を目指したい。
- ・安定して稼ぐことができることが、働く人にも企業にもまず第一に重要。このためには、価値を生み出すことに挑戦する人や企業が集まりつながり、学びなおし、仕事を新陳代謝させ続けていくことが不可欠である。地域にある産業が産業間の垣根や地域・年齢の垣根を超えて連携し、新しい価値を生み出している状態を実現したい。
- ・自然や農業といった良さを残し、自然と共存しながら、稼げる規模の大きな産業も育成していく必要がある。
- ・産業の多様性があるからリスク分散ができ、他ではできない副業や分野を超えた事業展開が可能になることも、塩尻で働く魅力になっている。
- ・“塩尻産業の魅力”を伝えるための物語を意識した情報発信や消費者との体験交流・関係づくりも重要。

## 分野④ 地域経済・産業・就労

「10年後のありたい姿」は

(仮)様々なビジネスに発展性と  
た働き方を選んでいる

私たちの目的 今このかきたい人



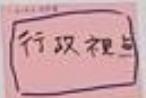
ることだからです

です

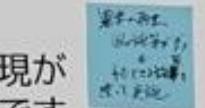
こりかいがあり、だれで望にあつ

りたい姿」の実現には

事業者視点

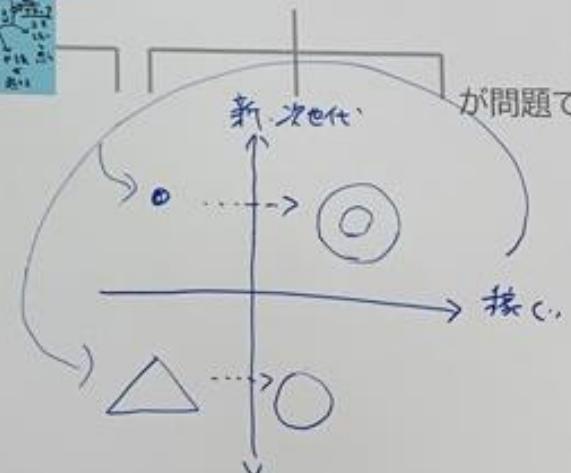


行政視点



の実現が  
必要です

が問題です



伝統 タイプ シカン

住まい場所  
住み  
(土地の)  
ひとと生きて  
の環境を  
大切にしている  
いとくら  
いとくら



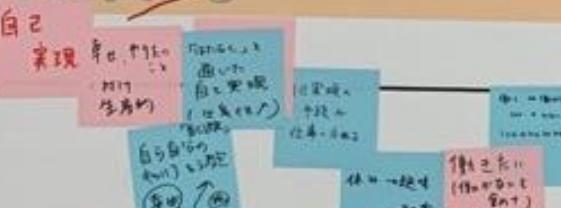
所得向上

採りと持った  
所得が  
大きくなって  
いる。  
収入もまた  
豊富になり  
、仕事の選択が  
広がる。

若い人  
がいる  
家庭がある  
うな人

やりがい  
お金が稼げる  
社会に貢献  
スキルアップ  
人脈が広がる

細かくは



所得向上

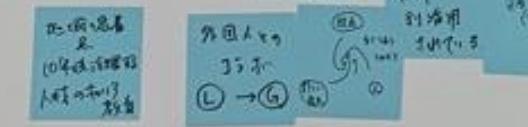
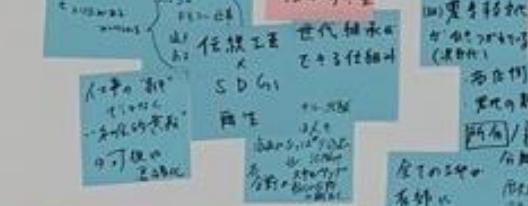
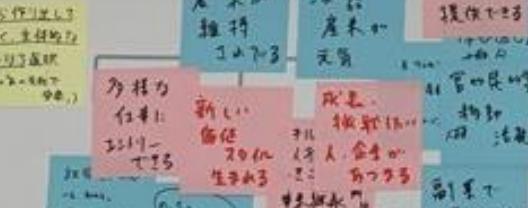
採りと持った  
所得が  
大きくなって  
いる。  
収入もまた  
豊富になり  
、仕事の選択が  
広がる。

若い人  
がいる  
家庭がある  
うな人

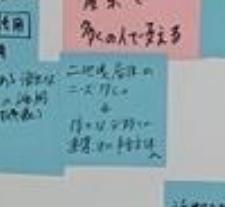
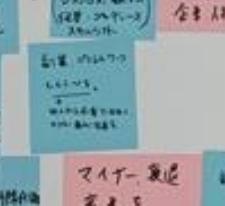
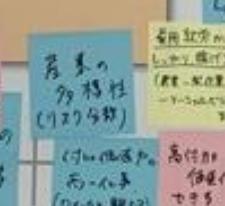
やりがい  
お金が稼げる  
社会に貢献  
スキルアップ  
人脈が広がる

細かくは

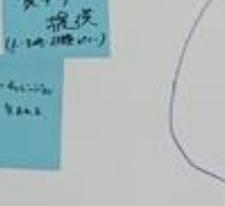
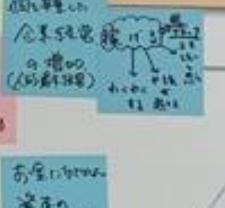
働く機会  
業種・職種など選択  
肢が豊富



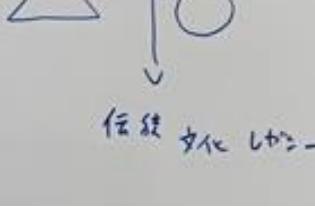
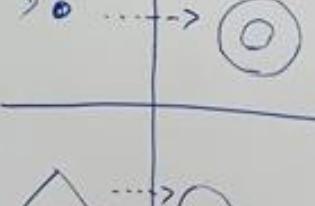
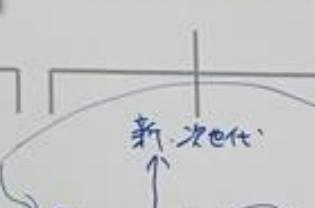
就業環境  
働く時間帯や場  
の柔軟性がある



特性・個性  
障がい、外国  
育ての誰もが  
いいときに働け  
る環境が整備されて  
いる



テクノロジ  
ーによる  
生産性の  
向上



が問題です

が問題です

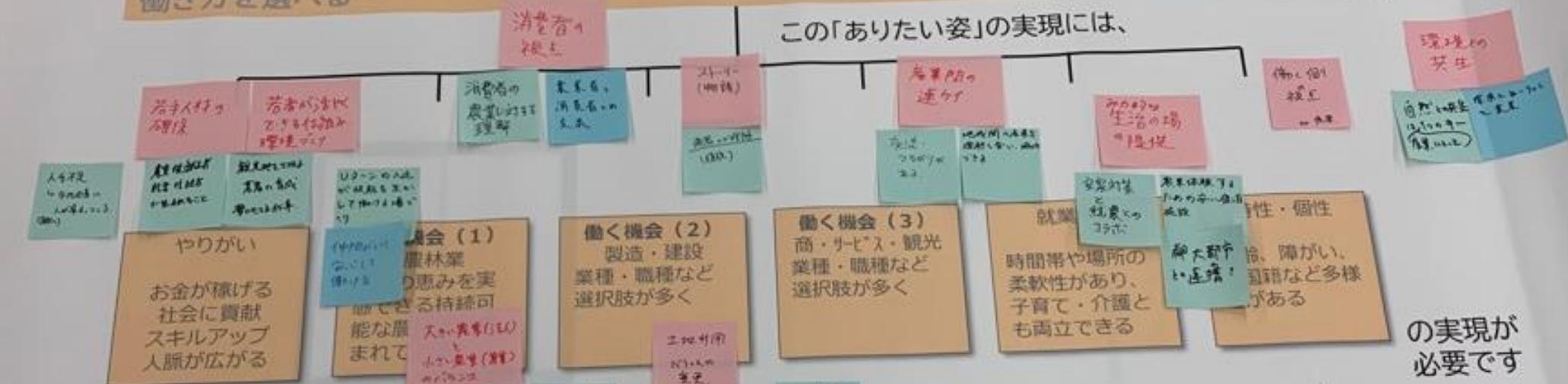
私たちの目的は、働きたい人がいきいきと働けることだから

## 分野④ 地域経済・産業・就労

「10年後のあるべき姿」は

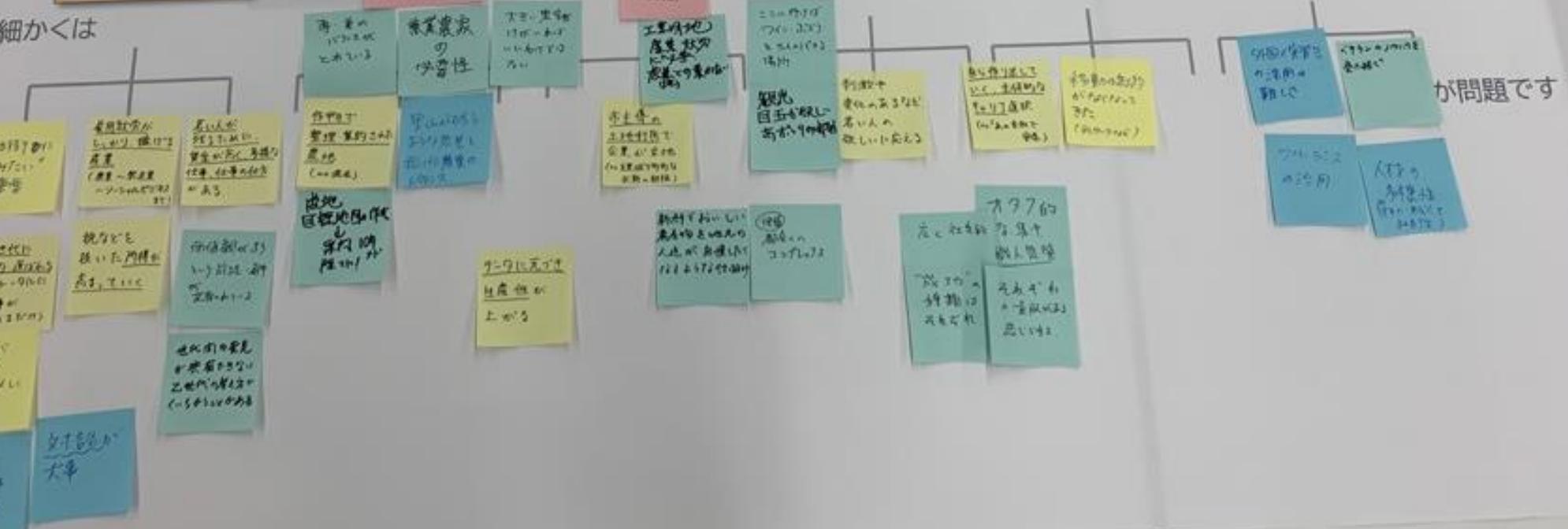
(仮)様々なビジネスに発展性と、人とのつながり・やりがいがあり、だれでも希望にあった  
働き方を選べる

です



の実現が  
必要です

細かくは



「10年後のありたい姿」は

## 生活や経済活動で、エネルギーをはじめ調達可能な未利用資源が発見・活用され て、生活の充実や楽しみになり、都市の特徴と認識されていること

です

この「ありたい姿」の実現には、

### 自給できるモデルが生まれ成長

#### 生活に必要な資源を できるだけ自給している

- ・地域に豊富にある、森林・水・農産物などを活用して、自足はできなくて、できるだけ自給することで、危機に強く、幸せを感じて暮らしている
- ・ハーフドの田園都市構想の職住近接、市街地の周囲に農地、田園と都市の幸せな結婚を実践している
- ・できるものは市内調達し、できないものは近隣・松本平から調達

### 無理しない環境配慮

#### インパクトのある モデル事業を展開

- ・集落単位(農村や奈良井宿)でエネルギーを自給市立させ、自ら電気代を決定するような先駆的なモデルを実現している
- ・モデルが市内及び全国に展開し、先進地として認識されることで、環境面での都市競争力を得ている

### 実践活動が同時多発的に進み、弾みがついている

#### カッコいい、楽しみな がらできる脱炭素

- ・我慢して環境配慮をするのではなく、夢があり、カッコよく、Z世代を引き付けるような脱炭素の取組みを展開している
- ・環境負荷の可視化が進み、取組みに手ごたえがある
- ・取組むとお得になる仕組みがある

#### それぞれサーキュ ラーエコノミーを実装

- ・実践が同時多発的に展開
- ・野菜くず・廃棄野菜の活用法の開発
- ・太陽光・小水力発電・バイオマス等の再生可能エネルギーが普及
- ・フードマイレージを減らす

#### 事業活動が環境と 共生

- ・インフラの統合により、移動やエネルギー消費を効率化
- ・環境負荷が低い農業が実現
- ・各種産業が環境に配慮し自然と共生しながら営まれている

の実現が  
必要です

### 【ワークショップの概要】

- ・本市には、多様な自然資源(水、森林)や農業などの資源があるが、エネルギーとして活用しきれていなかったり、遠くから調達しているが、環境負荷を低減するには、未利用資源の活用や、できるだけ近場で調達することが必要である。この姿は、塩尻市が目指す田園都市のコンセプトとも合致する。
- ・ただし、あまり無理や我慢を重ねても活動が継続しないため、成果が目に見えるようにすることに加えて、取組むことが喜びになり、豊かさの実感につながるようなアプローチが必要。
- ・ゼロカーボンの取組みに弾みをつけるには、他の地域に先駆けて塩尻市らしい好事例をつくり、注目を集めたり、市内や他地域に展開させていくことができると良い。集落単位でのエネルギー自立、奈良井宿のゼロカーボン化などのアイデアがある。

## 分野⑤ 環境・気候

私たちの目的は、取り組みを通じて将来に生活の安全、

守りたい  
「10年  
後の  
姿」

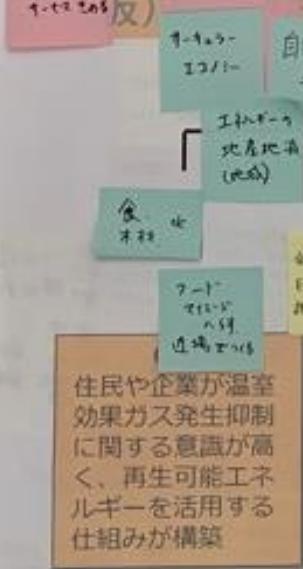
産業構造  
改革

「10年  
後の  
ありたい姿」は

企業が環境負荷ゼロへの取り組みを目指し、豊かな自然と共生していること

です

(反)



地域で  
資源循環  
推進、  
自給していき

ありたい姿」の実現には、

夢がある  
一層生まれて  
かっこいい

環境改善が  
できる  
内閣官房  
環境省

可視化  
乙酉代  
色

の実現が  
必要です

が問題です

細かくは

先端技術が  
活用されていく

現れ  
課題

CO<sub>2</sub>  
資源循環

F power  
ZFCO<sub>2</sub>  
セロカーボン

太陽光  
バイオマス  
家庭は  
ゼロ

廃棄物  
リサイクル

自然循環  
と  
再生

温暖化  
シナジー  
外生能流

コスト  
カナル

景観  
よしな  
(景観  
カナル)

インフラ  
コスト  
(人口減少地)

「10年後のありたい姿」は

**ゆるやかなつながりと、感謝が循環するお互い様文化で、住民同士で日常生活の基盤を作り、困りごとに動いていくこと**

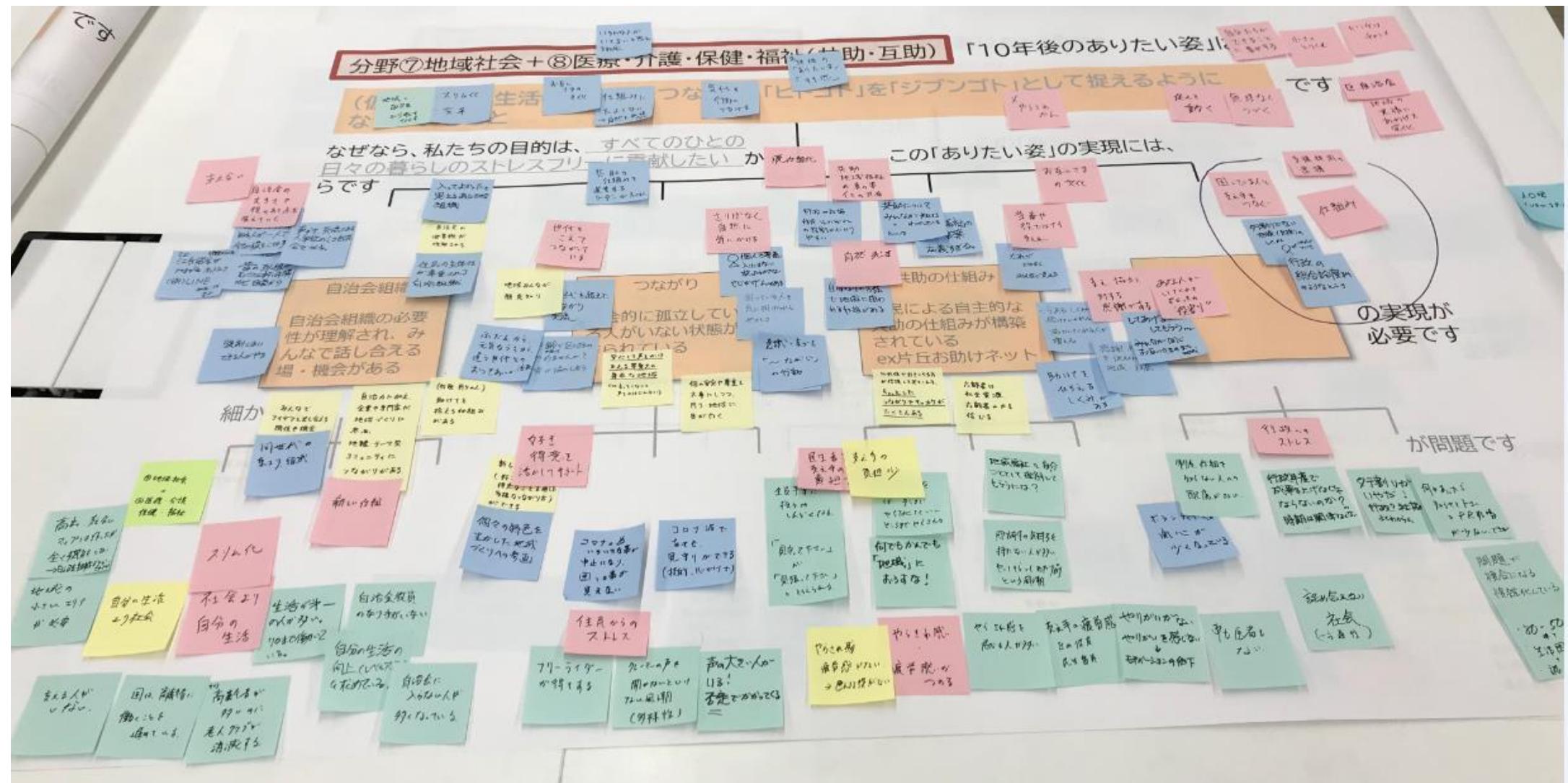
です

この「ありたい姿」の実現には、

お互い様の文化の醸成	基盤の理解と楽しさ(脱やらされ感)	協働で感知する	の実現が必要です
<b>住民同士がゆるやかにつながっている</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>さりげなく、気にかける人、見守る人がいて、地域で孤立することがない</li> <li>民生委員だけに頼らない</li> <li>義務ではなく、自然・自発</li> </ul>	<b>住民の共助の活動が各地で構築され継続</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>共助の活動を運営するリーダーが多くいる</li> <li>共助についての住民の共通理解が浸透している</li> <li>助けてと感謝が循環</li> </ul>	<b>生活様式の変化に対応した新たな自治会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要性が理解され、参画した意味を実感できる</li> <li>スリム化され、優先度の高い活動に注力している</li> <li>皆で話し合える場がある</li> </ul>	<b>“助けて”を拾い、つなげる仕組みが機能している</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>縦割りや機関を超えて、支援者の連携が円滑</li> <li>総合的な相談窓口があり、様々な相談や通報が集まり、必要な部門につなぐ</li> </ul>

### 【ワークショップの概要】

- 高齢者が増加し、自立した生活に不安を抱える住民が増えるが、共助・互助の網を広げようと仕組み化することには限界がある。今一度、共助・互助の必要性を確認し、多くの住民がゆるやかに・さりげなく、他者を気にかけ、見守るような雰囲気、地域づくりを進め、お互い様の文化を醸成していくことこそ、重要である。
- 住民主体の団体によるケアの活動などを活発化させるには、リーダーと担い手が必要であり、育成確保が必要であるが、活動を始める人や団体の足をひっぱる風潮もある。困った人が活動者・担い手に頼り、多くの人が感謝し支える循環をつくりたい。
- 現在の共助・互助には、自治会が多く動員されているが、すでに多くの仕事が集中しており、役員は高齢化、住民の多くも生活に追われ関与が減っている状況。このため「やらされ感」が募り、前向きに推進されない状況がある。今後、自治会を現在の生活様式にあわせて改革し、スリム化と優先課題に重点化していくことが必須。
- また、住民と行政、行政間、行政と関係機関において、困っている人や助けてを拾えるような相談窓口、通報・連絡先の共有などを強化して、円滑化していくことで、暮らしの安心を実現していくことが必要である。



## ⑧医療・介護・保健・福祉(公助)

「10年後のありたい姿」は

一人ひとりが老いや健康に向き合い、自らの心身の健康を守ることや周りに対して出きることを考えて動けることで、日常生活を自立して送ることができること

この「ありたい姿」の実現には、

### 基盤の運用強化

必要な時に限りある医療や介護、福祉サービスが効果的に受けられる

- ・松本医療圏での連携した医療体制で受診したいときに困らない医療が受けられる
- ・介護・障害者福祉サービスが必要な人に行き渡っている。
- ・在宅でも医療・介護が安心して受けられ、自分らしい終末期の過ごし方を選べる体制がある
- ・医療、介護、福祉に携わる人材が確保できている

### 知る→自ら守る→助け合う→分け合うの好循環

制度や必要な知識を学ぶ場がある

- ・老い、健康、障害について一人ひとりが知る機会が豊富にある
- ・医療や介護保険の制度が広く理解されている
- ・異世代間が触れ合える交流機会がある
- ・子どもから高齢者まで健康づくりの重要性が認識されている

自分で守り(自助)、助け合える(互助)マインドが醸成

- ・まずは自身の健康や幸せに自覚的になり、一人ひとりができる事をやる
- ・そのうえで困ったら助け合う、「助け合って」ときちんと言える地域になっている
- ・孤独・孤立した人が減っている
- ・医療・介護が必要になっても一人で悩まないでいい、一人で頑張りすぎないでいいと思える

自助→互助→公助の好循環が生まれている

- ・自立して生きられる人が増え、健康寿命が伸び、高齢化が活力に繋がっている
- ・介護される人が減り、その結果、社会保障費の伸びが抑えられている
- ・介護に携わる人がやりがいを持って働いている

の実現が必要です

### 【ワークショップの概要】

- ・幅広い分野にわたるが、共通するのは、まず必要な制度やサービスの基盤があり、そのうえでそれを市民が知って、正しく利用し、できること・できないことを理解し、「できることは自分で」、「できないことは助け合う」という自助・互助のマインドが醸成されること。それにより、「自分」→「お互い」→「持続的に成り立つ福祉社会」の好循環が生まれる。
- ・基盤づくりばかりに目が行きがちだが、その循環をスムーズにしていく仕事が公助と共に重要な役割。好循環によって、高齢でも、障害があっても、誰もが活躍でき、生きるのがラクになる社会に近づけていく。
- ・好循環のどこに課題や重点があるかは公的サービスの分野ごとに違う現実があるが、これまでの縦割りを打破することが求められている。

## ⑧医療・介護・福祉・虐待・虐待(ハロ)

「10.

(仮)内規を  
成であるこ

(公的  
本質)

知る

やぶ

はく

かく

見治

病

の

う

私たちの目的は

目ない古屋で健康を守りたいだからです

です

介護の必要が

ござと自立した

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

この「ありたい姿」の

担

け

れ

自ら

やる

(自立)

助

け

る

有機的連携

人間関係

ややかさ

いよ

病院

入院

しない

孤

單

へ

いる

介護

施設

上

い

健

康

の声が立ち

ての人の健康意識・

疾病への予防意識が  
高い。

障

発達

ある人

が活

ける環

境

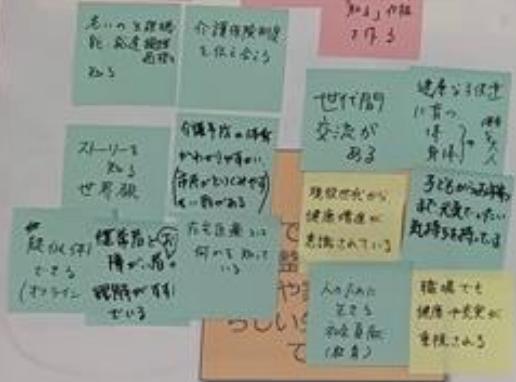
が整

つる

る

人

が減



制

度

環

境

づ

り

日本  
健康  
社会  
(社会)

## 分野⑨ インフラ・防災・まちづくり

「10年後のありたい姿」は

安定した都市インフラの上で、まちでの活動を誘発する仕掛けが充実するとともに、  
災害等から生活を守り、いち早く日常を取り戻す備えが出来ていること

です

この「ありたい姿」の実現には、

### 市民・企業・団体等の魅力的な活動を誘発するまちづくり

多様な移動手段が利用できるようにする

- ・高校生・高齢者・観光客等、公共交通が必要な人の移動手段が確保されている
- ・自転車等の小型の移動手段が充実している

多様な空間ができるようにする

- ・空き家・空き店舗が民間と連携しながら、魅力的に活用されている
- ・歩道・自転車道等が充実し、人にやさしい都市空間が広がっている

### 確かな都市インフラ

道路・水道を適切に維持・管理する

- ・危険の少ない道路になっている
- ・おいしい水が安定して供給されている
- ・コストパフォーマンスの高い事業運営になっている

### 災害にあっても適切な行動をとれる状態

災害への備えの状況が見える化

- ・災害リスクが市民・地域に正しく理解されている
- ・自助・共助・公助の考え方が浸透している
- ・災害弱者、避難所、防災倉庫等が情報共有されている

災害時に適切に行動できる

- ・正しい情報を迅速に伝えられるようにする
- ・スムーズな避難行動がとれるようにする
- ・消防団や自主防災組織を持続していく

の実現が必要です

### 【ワークショップの概要】

・都市インフラの役割について、次の2つがある。

①日々の暮らしを支える土台としての役割 ②まちの魅力を創出していく土台としての役割

・①については、一定のサービス水準を確保・維持していく必要性が確認された。

・②については、「いくら整備しても、使われないと意味がない」、「投資されてきた、中心市街地のにぎわいが減っている」という問題意識のもと、都市インフラができることについて様々なアイデアが出された。

→②については、他分野とも連携して、具体的な取組を拡げていくことが求められる。

・都市インフラがあるうえで、防災についての安心感を得るには、災害時の具体的な行動が見えている状態をつくることが重要である。そのためにも、バランスよく自助・共助・公助の役割分担がなされ、それぞれに備えや訓練ができている状態をつくることが求められる。

## 分野⑨ まちづくり・防災・インフラ

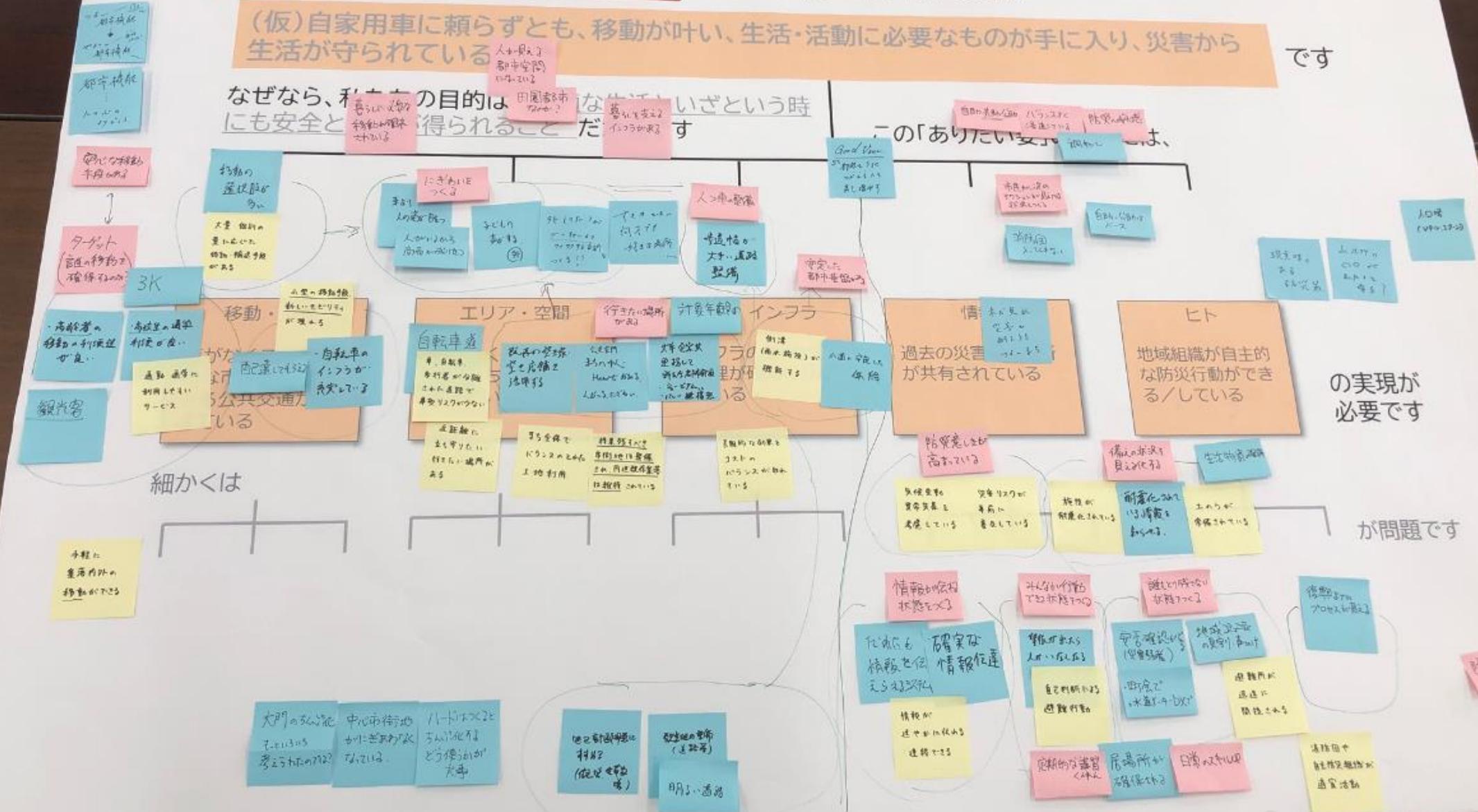
「10年後のありたい姿」は

(仮)自家用車に頼らずとも、移動が叶い、生活・活動に必要なものが手に入り、災害から生活が守られている

です

なぜなら、**安全**の目的は、**安全と得られること**だ

この「ありたい姿」では、



「10年後のあるべき姿」は

市民と市役所がともに「ジブンゴト」ではじめる取り組みが、多様な人材や組織をひきつけ、共創が加速していること

です

### 「おまかせ」にしない市民

- ・困りごとがあれば、まず、自分たちでできることを考える
- ・かしこまらず、負担が大きくななくできることに取組んでいる
- ・公共性や行政との関係について子ども・若者が自然に学び、関心を持ち、協力している。
- ・シニア世代を中心に各世代が地域や社会のなかで居場所と出番を持っている
- ・若者が独自のムーブメントや流行を生み出し、地域の魅力をつくっている

### ジブンゴトとして挑戦する職員と市役所

#### 志を軸に内外で連携するスマートな市役所

- ・政策や施設の理念・志が風化せず、引き継がれている
- ・膨張しない「足したら引く」スリムでスマートな行政
- ・何でも引き受けるのではなく、すべきことに集中し外部のパートナーと連携して成果をあげる
- ・タテ割りでなく連携する市役所
- ・サービスがわかりやすく、選べる

#### 発想豊かに挑戦するオープンな職員

- ・職員自身が仕事をジブンゴト化している(副業も活発)
- ・職員が常に危機感を持ちながら仕事をしている
- ・民間や新参者に思い切って任せ、一緒にやってみる、文化が継承されている
- ・多彩な個性の職員がいて、職場としても人気

### 多様な人材と組織をひきつける地域

- ・地域課題やニーズが可視化され、オープン。関わり代が見える
- ・地域の担い手(個人・企業)が市内外から集まり、連携し、参画者にも地域住民にも成果が実感されている
- ・外部パートナーが移住や定住し、また、仲間を呼んでくる好循環がある

の実現が必要です

### 【ワークショップの概要】

- ・まちづくりにおいて重要なことは、困ったことがあれば、当事者として問題を解決しようとする姿勢である。小さなことでも、年齢に関係なく、自分以外の多くの人に関係する問題に関心を持ち協力する機会は豊富にあるため、それらをきっかけとして、役所任せにしない姿勢を持つ市民が育ってほしい。
- ・一方、市役所も、政策の目的や理念を自分の言葉にして、成果を出すために庁内や市役所以外の団体との連携を活発に行っている。行政が何でもやるという発想から、行政にだからこそできる、中間支援や人のつなぎ役などに集中し、より多くの成果を生み出せるようになってほしい。
- ・職員自身が仕事をジブンゴト化し、市民目線や受益者目線をもって良い結果ができるように工夫しながら仕事を行っている。また、副業も含めて、自身の趣味や仕事の幅を広げつつ、人脈や経験が本業にもプラスの効果をもたらしている。常に危機感をもっており、現状をよりよく改善していくこうと挑戦したい。
- ・このような市民と市役所が、多様な人材と組織を引き付け、移住や事業連携が活発化し、まちを前進させていたい。

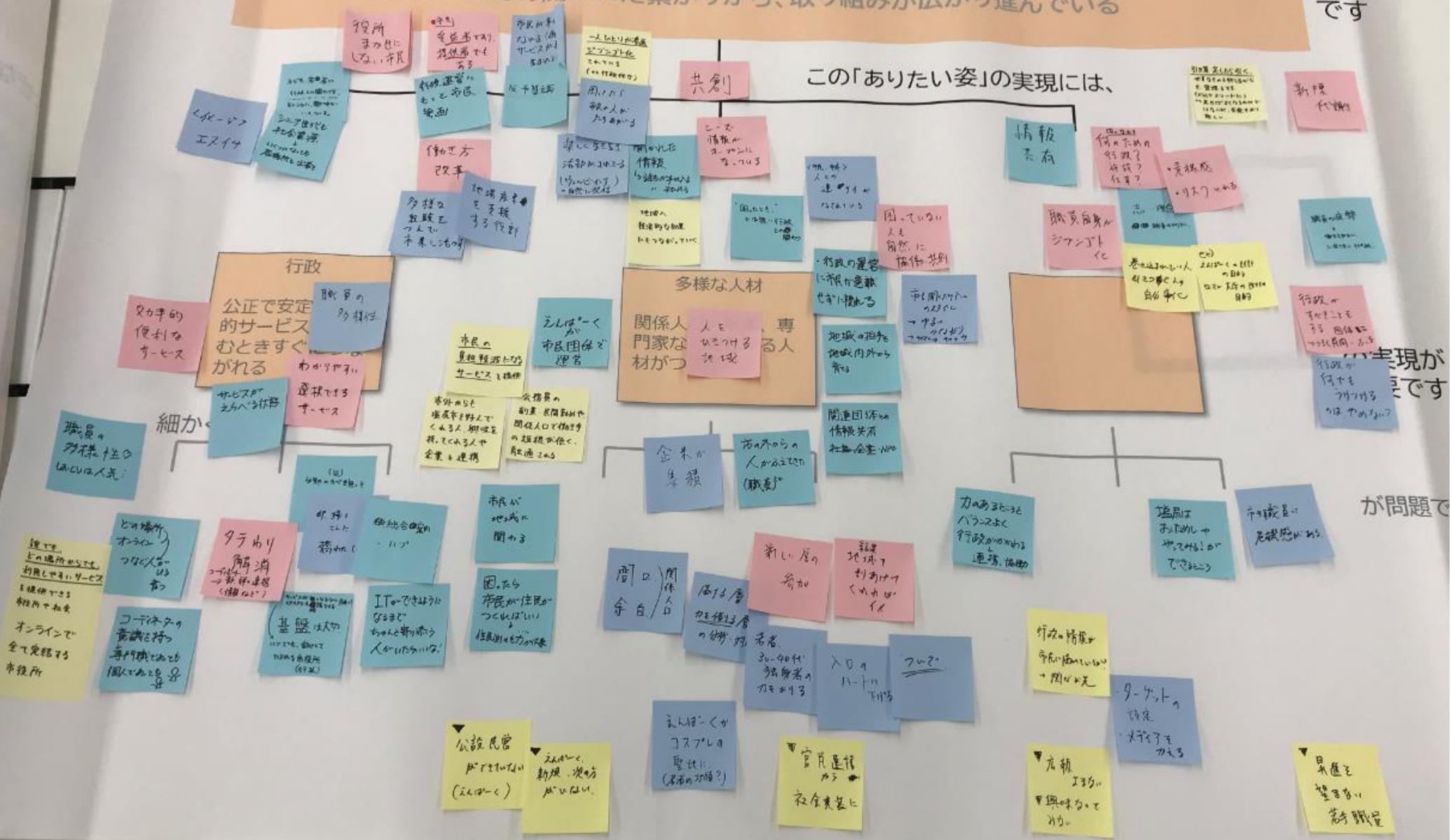
## 分野⑩ 行政運営・協働参画

「10年後のあるべき姿」は

(仮)行政や多様な人材の開かれた繋がりから、取り組みが広がり進んでいる

なぜなら、私たちの目的は、行政と市民の境がなく地域課題の解決や市民生活の向上が実現していくことだから

です



# 各政策分野「10年後のあるべき姿」まとめ

政策分野		10年後のあるべき姿(約束する価値・体験)
A 次世代共育	①パートナーシップ・子育て	家族の多様性やそれぞれの幸せについての理解のもと、家庭環境によらず子どもと家族が応援され、安心して支援やサービスが得られる
	②学校教育・家庭支援	すべての子どもたちがワクワクする学びを自ら発見できるとともに、周りへも共感でき、「ここで育ってよかった」と思う体験ができる
	③伝統・芸術文化・スポーツ・生涯学習	一人ひとりが特別好きな余暇活動で自身と次世代の笑顔溢れる豊かな生活をつくり、このことが誇りや愛着、新たなつながりを生んでいる
B 共創循環	④地域経済・産業・就労+⑥観光	塩尻に魅力と価値を見出す人たちがつながり、喜びと誇りを持ちながら働き、多様で付加価値の高い事業・商品・サービスを支えている
	⑤環境・気候	生活や経済活動で、エネルギーをはじめ調達可能な未利用資源が発見・活用されて生活の充実や楽しみになり、都市の特徴と認識されている
	⑩協働参画・行政運営+⑥交流	市民と行政がともに「ジブンゴト」ではじめる取り組みが、多様な人材や組織をひきつけ、共創が加速している
C 安心共生	⑦地域社会、共助・互助	ゆるやかなつながりと、感謝が循環するお互い様文化で、住民同士で日常生活の基盤を作り、困りごとに動いていく
	⑧医療・介護・保健・福祉(公助)	一人ひとりが老いや健康に向き合い、自らの健康を守ることや周りに対して出来ることを考え動けることで、日常生活を自立して送ることができる
	⑨インフラ・防災・まちづくり	安定した都市インフラの上で、まちでの活動を誘発する仕掛けが充実するとともに、災害等から生活を守り、いち早く日常を取り戻す備えが出来ている